

令和2年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第7号

令和2年7月14日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・減数分裂期の葉色・生育量等に留意し、穂揃期の葉色を維持させるための追肥を行いましょう。
- ・いもち病の発生に注意し、発生が確認された場合は速やかに防除しましょう。
- ・斑点米カメムシ類の水田内での侵入を防ぐため、水田周辺の草刈りは7月中旬から出穂10日前までに終わらしましょう。

1 気象の概況

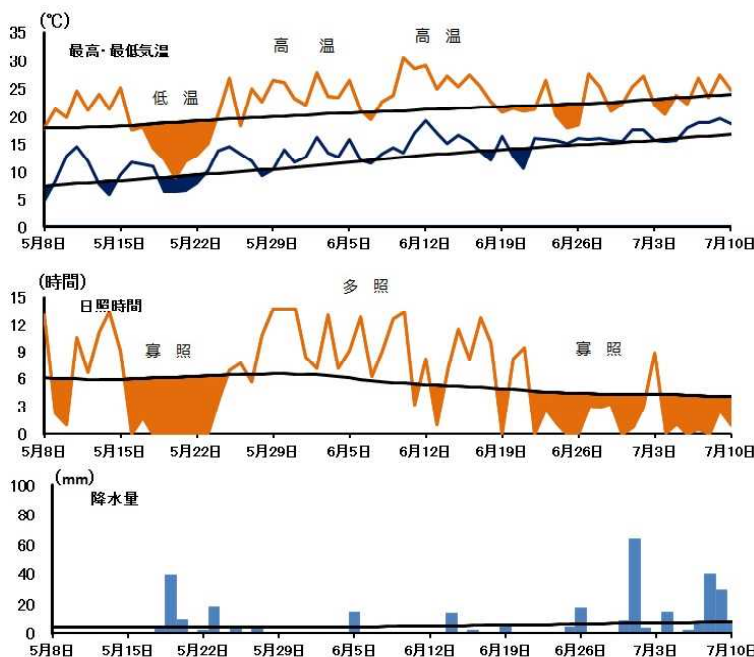


表1 気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月上旬	18.5	2.5	98.8	161%	14.5	37%
6月中旬	20.0	2.9	69.9	130%	20.5	39%
6月下旬	18.5	0.4	22.4	52%	30.0	49%
7月上旬	20.5	1.2	17.7	41%	165.5	245%

<気象概況 (仙台管区気象台発表)>

【6月】

- ・平均気温：かなり高い
- ・降水量：かなり少ない
- ・日照時間：かなり多いから多い

【7月上旬】

- ・平均気温：高い
- ・降水量：かなり多いから多い
- ・日照時間：かなり少ないから少ない

図1 気象経過図 (気仙沼アメダス：5月8日～7月10日)

2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果 (7月10日調査)

品種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)	
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本年	5/14	20.4	60.3	705.8	10.5	40.7	0.9	
	前年比・差		±0	104%	110%	108%	-0.2	+0.8	
	平年比・差		±0	107%	111%	130%	+0.1	+0.7	
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本年	5/12	18.6	61.2	463.1	10.6	36.6	1.8	
	前年比・差		+6	104%	113%	97%	±0	-2.2	+1.5
	平年比・差								
県平均値	本年			62.7	539	10.8	41.1	1.78	
	前年比・差			105%	96%	±0	+1.6	-1.02	

注1) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値。

注2) 志津川ひとめぼれは平成30年度から調査開始のため平年値はなし。

注3) 県平均値は、県内31地点の生育調査ほ(品種：ひとめぼれ、ササニシキ)の平均値。

- ・ 県内の生育調査ほにおいては、生育は概ね順調に進んでいます。
- ・ 管内の生育調査ほにおいては、葉数は前年並、莖数は前年並からやや多くなっており、生育は順調に進んでいます。7月10日現在、志津川「ひとめぼれ」は幼穂形成始期を迎えており、本吉「ひとめぼれ」もまもなく迎えるものとみられます。

3 出穂予想

- ・ 今後の気温が平年並みであると仮定すると、7月3日現在で、三陸沿岸の出穂期は8月8日（出穂始期）～8月14日（穂揃期）頃になると予想されます（表3）。ただし、今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することもありますので、ほ場で幼穂長を確認し、生育ステージを把握することが重要です（表5）。

表3 生育ステージの予測（7月3日現在、古川農業試験場）

地帯区分	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
	始期 ～ 終期	始期 ～ 終期	始期 ～ 終期	始期 ～ 終期
三陸沿岸	5/7 ～ 5/25	7/10 ～ 7/17	7/20 ～ 7/27	8/8 ～ 8/14

注1) 出穂期の平年値は過去10か年（平成21～30年）のうち、最も早い年と遅い年を除いた8か年平均

注2) 7月3日までアメダスデータ実測値使用、7月4日以降はアメダス平均値使用

注3) 対象品種「ひとめぼれ」「ササニシキ」

注4) 各生育ステージの幅は田植始期～田植終期で予測

4 今後の管理の留意点

細線/通常の水管理

太線/低温時は深水管理

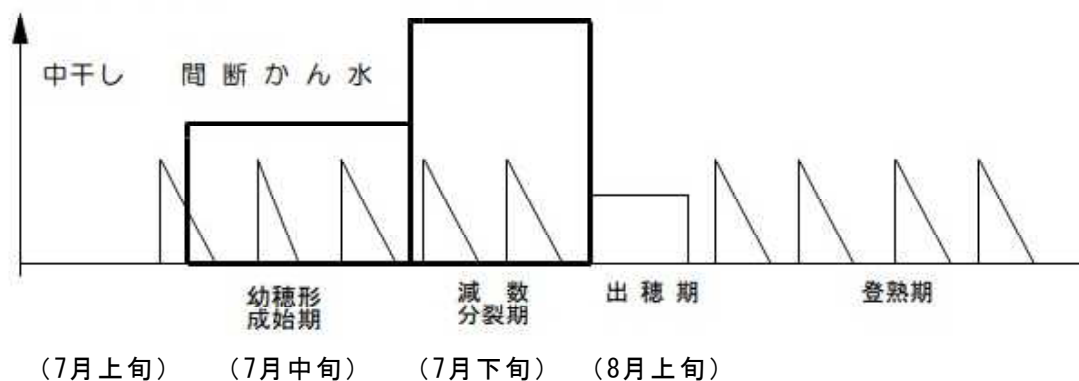


図2 水田水管理体系

【中干し後の水管理】

- ・ 管内においては、幼穂形成期を迎えているものとみられますので、中干しは終了しましょう。中干し終了後は急激に湛水状態とすると根を傷めますので、最初は走り水とし、その後間断かん水としましょう。
- ・ 根腐れが発生しやすいほ場では、飽水管理（田面の足跡に水がなくなったら水を入れ、土が十分に湿ったら排水する）を行うと、根の健全化と莖の充実に効果があります。

【低温時の水管理】

- ・ 幼穂形成期から減数分裂期にかけて日平均気温20℃以下、または日最低気温17℃以下が続く場合は、早急に深水管理を行いましょう。

○ 幼穂形成期（幼穂長1～2mm）：幼穂の伸長にあわせ水深を5～10cm程度とする。

○ 減数分裂期（幼穂長3～12cm）：できる限りの深水管理を実施する（水深20cmが望ましい）

【追肥】

- ・登熟期の光合成能力向上，白未熟粒の発生の軽減，玄米品質・食味の向上のため，追肥を実施しましょう。
- ・ほ場ごとに葉色，生育ステージ及び生育量を確認し，適切な追肥を行いましょう（表4，表5，表6）。

表4 品質を維持するための目標生育推移（ひとめぼれ）

	6月20日	7月1日	7月10日	7月20日
草丈・稈長(cm)	32~34	45~48	56~59	66~69
莖数・穂数(本/m ²)	310~360	460~520	470~530	450~500
葉緑素計値	41~44	40~42	38~40	35~37

表5 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	時期		出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
	本吉「ひとめぼれ」平年値				
幼穂形成始期	7月12日		25日	1~2	-
減数分裂期	始期	-	15日	30~40	-10
	盛期	7月23日	12日	80~100	±0

注）葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって，出穂前日数を知ることができます。

表6 追肥の目安

品種名	追肥時期別及び施肥量（窒素成分量）	
	幼穂形成始期（出穂25~20日前） （幼穂長 1~2mm）	減数分裂期（出穂15~10日前） （幼穂長 3~12cm）
ひとめぼれ	1.0kg/10a	1.0kg/10a
まなむすめ	2.0kg/10a	-
ササニシキ	-	1.0~1.5kg/10a
みやこがねもち	-	1.0kg/10a

【病虫害防除】

（1）いもち病

①穂いもち

- ・箱施用剤や予防粒剤の効果が低下し始めるとともに，葉いもちの感染好適条件となりやすい時期です。また，日照不足や追肥後は，稲体の窒素濃度が高まり，いもち病菌に対する抵抗力が低下して感染しやすくなります。
- ・ほ場を入念に見回り，発生を確認した場合は，茎葉散布剤で直ちに防除してください。
- ・アメダス資料による感染好適日の推定では，6月26日に準感染好適条件が広域的に出現しています。また，7月1日には県中部・北部の一部で感染好適条件が出現し，7月11日，12日には感染好適条件が広域的に出現しています。
- ・最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は，県病虫害防除所ホームページで確認できます。（<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>）

②穂いもち

- ・予防粒剤は，出穂30~5日前に使用する剤が多いので，生育状況をよく確認し，出穂期の予測に基づいて適期に散布しましょう。

(2) 紋枯病

- 出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、注意してください。
- 茎葉散布剤による散布適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準（減収率5%、被害発生確率50%の場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達した場合は、防除を行ってください。
- 前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあるので、防除を実施してください。
- 株元に薬剤がよく付着するように十分や薬量で散布してください。

(3) 稲こうじ病

- 前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、適期（出穂20～10日前）に防除を実施しましょう。

(4) 斑点米カメムシ類

- 病害虫防除所から防除情報第2号が発行されました。斑点米カメムシ類の水田内への侵入を防ぐため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう（図3）。

○防除のポイント

①水田周辺の草刈り（7月中旬から出穂10日前まで）

- 水田周辺にある牧草地や雑草地では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、アカスジカスミカメの幼虫が主体となる7月中旬に草刈りを行ってください（図3）。
- 水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行くと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに終わってください。

②薬剤防除

- 薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることで、アカスジカスミカメの密度を低下させ被害を軽減できます。

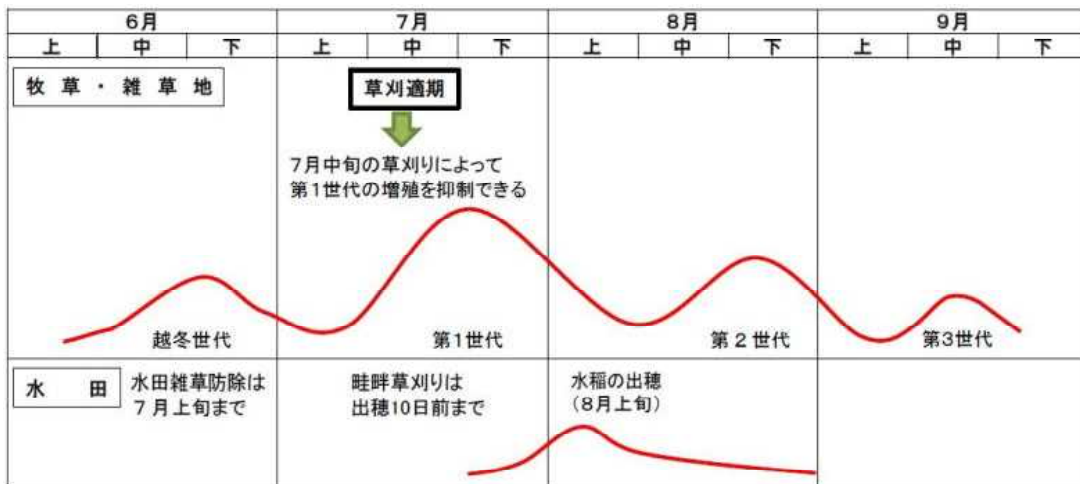


図3 アカスジカスミカメの平年の発生消長と草刈り適期

○だて正夢の栽培管理

表6 だて正夢現地栽培技術普及展示の生育調査結果（7月10日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/13	20.8	61.3	426.4	10.4	40.4	0.2
	前年比・差	±0	107%	116%	108%	+0.8	+4.3	+0.2
だて正夢 県平均値	本 年			69.0	477	10.8	42.9	1.28
	前年比・差			109%	93%	+0.1	+1.4	+0.18

注1) だて正夢は平成29年調査開始のため、平年値はなし

注2) 県平均値は、県内9普及センター+古川農業試験場の平均値

【追肥】

- ・「だて正夢」は千粒重が小さく、乳白粒も発生しやすいため充実度不足による落等が生じやすいので、登熟向上の効果が高い減数分裂期の追肥が重要です。
- ・目標の茎数が確保されている場合は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aの追肥を行うことで、整粒歩合の向上をはかります。
- ・有効茎数が不足し穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10aずつを施用し、適正籾数の確保をはかりましょう。
- ・生育過剰で倒伏の恐れが心配される場合には、追肥を見送ります（詳細は水稻新品种「だて正夢」栽培の手引きを参照願います。）

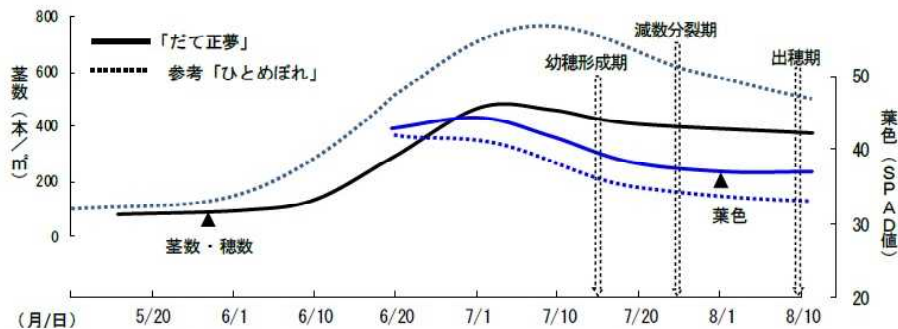


図4 「だて正夢」生育のイメージ

注) 平成28~30年栽培試験にて適正な籾数・収量・品質を得た試験区の生育をもとに作図

表7 「だて正夢」の生育量の目安（「だて正夢」栽培の手引きより）

	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃	出穂期 8月10日頃
草丈 (cm)	64~70	76~82	-
茎数・穂数 (本/㎡)	390~460	380~420	350~400
葉色 (SPAD値)	40~42	37~39	35~37
主茎葉数 (葉)	10.0~10.8	11.4~12.2	12.5~13.0

1か月の天候の見通し 東北地方（7月11日～8月10日）

（7月9日 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 期間の前半を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は、東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並か多いでしょう。
- 向こう1か月の日照時間は、東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並か少ない見込みです。

・・・・・農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）・・・・・

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名等ラベルなどで確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って適正に使用しましょう。

※最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認できます。

HP<<http://www.acis.famic.go.jp/searchiF/vtll001.html>>